

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372700932
法人名	社会福祉法人 成仁会
事業所名	グループホーム みどり
訪問調査日	平成 20 年 3 月 18 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 11 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4372700932
法人名	社会福祉法人 成仁会
事業所名	グループホーム みどり
所在地	熊本県南阿蘇郡西原村大字布田845 (電話) 096-279-4569

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年3月18日	評価確定日	平成20年4月11日

【情報提供票より】(20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人(内兼務1名), 非常勤 0 人, 常勤換算 7.5

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1 階建て
------	----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	14,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	230 円	昼食	270 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	名		
年齢	平均 88.3 歳	最低	84 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くまもと成仁病院 益城病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

阿蘇の山々を望める自然豊かな環境という立地条件のもと、地域の中に“喜ばれる施設”として開設された隣接特老との連携のもと、掲げられた理念の実現に管理者を中心に全職員が共通認識で取り組み、入居者本位の安心した日常生活を支えている。職員の持つ経験や資格を惜しみなく発揮し、入居者の平均年齢が高いに中にある一人ひとりの役割のある生活やレクリエーションによる身体機能低下防止や認知症進行防止に努め、明るく対応する職員のもと、ゆっくりとではあるが生き生きとした日常となっており、穏やかな表情からも質の高いケアであることが窺われた。運営推進会議の意見をもとに地域への啓発活動や交流促進が図られ、ホーム側も社会資源の一つとしての活用を呼びかけており、今後益々の活躍が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を全職員で協議し、運営推進会議や家族会で報告し、金銭預かりの確認はサインを貰う事での確実性を図ったり、インシデントレポートの作成により事故にまで繋がらないようにと全員で取組むなど具体的な改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回自己評価にあたり、日々のケアの振り返りと勉強の一つとして先ずは以前との評価の違いを認識する事からスタートし、勉強会や日々のミーティング等少人数で話し合い、全職員が自己評価に取り組みリーダーでまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政・家族会会長・区長・入居者代表1名の参加での運営推進会議は現状報告や意見交換が行われている。委員の意見により、ホーム便りを家族会の承認を得て地域へ回覧することができる等具体的な取り組みに繋げている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月ホーム便りの送付や訪問時に健康状態等を説明し安心へ繋げている。意見や要望は訪問時に収集したり、家族会の設置と外部評価の結果や運営推進会議の状況の説明が行われ、家族会参加の家族と管理者と1対1で話し合い、その話し合いを議事録として残し職員へフィードバックし共有化を図り、ホーム運営に反映させている。ホームの苦情相談窓口と公的機関も明記されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会への加入により回覧板の受渡しや“しあわせがいっぱい”と称するホーム便りを地域へ回覧し情報を発信している。地域に開かれたホームとして、小中学校との相互交流やホームの庭では夏休みのラジオ体操の場所となったりグランドゴルフの会場として活用されている。民家の点在した中でも、地域の方々の交流促進に努力されており、今後益々地域との関係が強固となる事が期待できる。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	この地域に初めての介護施設として開設されたこの法人は基本を“地域の中に喜ばれる施設”としてスタートしている。グループホームも開設当社より人間としての尊厳と家庭的な雰囲気を入居者の個性を活かし安心して暮らしを支えることを理念とし、地域に密着した生活が支援されている。		
2	2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のカンファレンスや勉強会の中で理念に沿ったケアにするため意見交換を行い、ケアには形はなく個々の価値観で判断しない等理念を判断基準として捉え、日々理念の実践に向け真摯に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入により回覧板の受渡しや“しあわせがいっぱい”と称するホーム便りを地域へ回覧し情報を発信している。地域に開かれたホームとして、小中学校のワークキャンプの受け入れや入居者の手縫いのぞうきを贈ったり、行事へ参加する等相互交流が行われている。ホームの庭では夏休みのラジオ体操の場所となったりグランドゴルフの会場として活用されている。地域の活動（苦役）への参加はできていないが、区費の支払が公民館設立の構想に繋がっており、様々な形で交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を全職員で協議し、運営推進会議や家族会で報告し改善が図られている。今回自己評価にあたり、日々のケアの振り返りと勉強の一つとしてまずは項目の違いを認識する事からスタートし、勉強会や日々のミーティング等少人数で話し合い、全職員が自己評価に取り組み、リーダーでまとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・家族会会長・区長・入居者代表1名の参加での運営推進会議は現状報告や意見交換が行われている。委員の意見により、ホーム便りを家族会の承認を得て地域へ回覧することができる等具体的な取り組みに繋げている。	○	地域包括支援センターにも参加の要請をされており、今後更に多方面からの出席に期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加や入退院の状況報告等が行われている。ホーム側も行政に対して、見学の間や勉強会(認知症)等資源として使ってもらうことを申し出ている。	○	更に今後評価結果等提出時等を通じて行政との交流を図り、専門職として活躍の場等積極的な関わりができることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行のホーム便り“しあわせがいっぱい”を請求書と共に発送している。家族の来訪の多いホームであり訪問時に暮らしぶりや健康状態を説明したり、入居者の心身の変化や病院受診後は随時電話報告をしている。四半期毎にこずかい台帳へのサインによる確認が取られ、行事ごとの写真の掲示により具体的な日常生活を見てもらい家族への安心へ繋げている。新人職員の紹介もホーム便りに写真入で掲載し、家族へ周知を図っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が設置され、外部評価の結果や運営推進会議の状況を説明し、家族会参加の家族と管理者と1対1で話し合い、その話し合いを議事録として残し、職員へフードバックし共有化が図られホーム運営に反映させている。ホームの苦情相談窓口と公的機関も明記されており、管理者は要望や苦情がきていないか行政へ連絡を取り、要望等の収集に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
	9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>家庭の都合等に本人の希望時間帯での勤務や休職等を取り入れ、法人で基礎研修を積み、経験、資格、本人の希望に応じた法人内異動が行われている。管理者は毎月有給休暇を推奨し、ストレス軽減や離職防止に職員とのコミュニケーションに努めている。</p>		
5. 人材の育成と支援						
	10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人として、年2回正規登用試験が行われ、ホームで事前勉強会を開き、離職防止やモチベーションの向上を図っている。また、年間計画に沿って、毎月教育担当者の計画のもと、ケアだけするのではなく社会的なルールや人間としての質の向上の機会と全職員が持ち回りで資料を作成した勉強会を開催している。外部研修にも職員の力量に応じ平等に参加している。資格取得にも積極的であり、模擬問題をホーム内研修に取り入れ、自己研鑽している。</p>		
	11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に参加し交流促進に繋げ、情報交換や問題点を見出しお互いにアドバイスしあう等質の向上に努めている。管理者は近くのグループホームの運営推進会議に出席しており、職員の交換実習が行われ、更に職員から合同での勉強会を行いレベルアップに努めたいという希望の声があがっている。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
	12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>隣接施設のショートステイからの入居やケースワーカーからの相談で、先ずホームの見学からスタートし、本人の納得の上での申し込みとなるよう努めている。入居に至る過程においても本人や家族の意向を引き出し、家族との連携を取り、入居後も自宅に連れて行ったりと徐々に落ち着いた生活へとなるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は人生の大先輩である入居者を敬う気持ちを忘れず、ケアに当たっている。家庭的な環境は本人・家族・職員が常に一緒であるという事も念頭に、家族の「何かできることは無いでしょうか。」との意見に、座ってできることなどを検討したり、自然発生的に掃除等が行われており、職員もねぎらいの言葉をかけたり、職員にありがとうの感謝の言葉をかけられたりと支えあう関係を築いている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントで得た情報をもとに、日常の言動や暮らしぶりから思いや意向を把握している。また、担当制の採用により職員個々がしっかりと寄り添いや傾聴により確認でき、家族もケアカンファレンスに参加されており、本人本位の支援に努力されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時にまずは家族にアセスメントシートの記入をお願いし、暫定プランを立案、センター方式を採用したプランは本人、家族の意向や要望を踏まえ、毎月のケアカンファレンスにおいて毎回全職員がより多くの意見が出るように前もって資料を提出し、実施可能なプランを目指し作成され、職員の観察力や気づきが随所に反映された詳細な個別介護計画となっている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヵ月毎の定期的な見直しと身体的・精神的な変化に応じて随時計画を見直し、現状に即した計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
	17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者の希望に応じ、墓参りやふるさと訪問、秋の例大祭見学等企画した外出の機会等柔軟に対応している。企画書からも多様に対応された事が窺われた。ホーム内で認知症デイサービスが行われ、送迎支援もする等多機能性を発揮している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
	18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望に応じ入居以前からのかかりつけの受診や協力医療機関への受診となっている。定期受診を月に1回行っており、協力医療機関との連携により適切な医療を受けられるよう支援している。</p>		
	19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に指針をもとに重度化や終末期に対応についての説明や家族会の中でも説明が行われているが、今のところ看取りの事例は無い。</p>	○	<p>平均年齢が高く、家族との相談を重ね、どこまでホームでできるのか具体的な状況へ備えて全職員で話し合い、できるだけ長く住み続けられることを期待したい。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1)一人ひとりの尊重						
	20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は自然な声かけや耳元での声かけ等入居者の誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。申送り時にも1番さん2番さんという呼び方で、入居者の不安に繋がらないよう配慮している。個人情報の取扱いには家族の同意を得ており、今後もプライバシー確保の徹底に努力をする意向である。</p>		
	21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の大まかな流れの中、二者選択にして要望を聞いたり、本人の意思を尊重し本人らしい生活を送る支援となっている。身体機能防止、認知症進行防止に向けた取り組みが行われていることも訪問調査時に確認できた。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は隣接施設の栄養管理士の作成したものであるが、食事の準備や片付け等能力に合わせ職員と共に行われている。自主メニューの日を設け、入居者の意向を採り入れたり、家族や職員との外出先での食事や庭を活用しバーベキュー等も行う等楽しい食事となるよう支援している。毎週土曜日はカレンダー代わりに希望者にはビールや梅酒、ジュース等も楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じ毎日入浴支援が行われている。希望の時間帯での支援であり、夕食後の入浴や状態によってはシャワー浴、清拭へ変更する等個別に対応している。敬老会やホームのワックスがけの日を利用し、全員で食事と温泉入浴等も採り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の生活歴や能力に応じた支援をプランに入れ、編物や繕い物等を一緒におこなったり、押し花、太極拳等隣接施設のサークル活動への参加等楽しみごとの支援が行われている。入居者のできることを中心に役割を持った生活(フロアの掃除、テーブル拭き、縫った雑巾を小学校へプレゼント)や多くの楽しみごとの支援が行われ、忘年会や米寿の祝いの際には挨拶係としての出番を作るなど自信回復も図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や季節に応じてのドライブ等の外出機会はあるが、レベル低下により減少しつつあり積極的に企画していく意向である。家族が外食に誘われたり、ふるさと訪問等外出の機会等個別対応がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける事の弊害や安全面について勉強会を行い、職員の見守りにより所在確認が行われ、施錠のないケアを実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の立会いのもと、隣接施設と合同の避難訓練が実施されている。隣接施設が地域の避難場所となっており、非常用備品や備蓄もさなれている。	○	消防訓練は隣接と連携して行われているが、地域の協力体制の強化により二次的な見守りも期待できる。防災訓練の周知を図り地域と一体となって取組んでいただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接施設の栄養管理士が作成する献立は基本的には1,400カロリーとなっており、食事摂取状況や水分補給の状況を観察し、食事は記録する事で栄養バランスに気をつけている。水分不足には1,000cc以上の確保のため、別表を作成する等個別対応が取られている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	鳥のさえずり等豊かな自然環境のなか、木材をふんだんに使用したパブリックスペースは自然採光もほどよく、ソファやマッサージチェア等が置かれ、ほうきやちりとりを使い掃除される入居者の姿等からも日々の取り組みが窺われ、居心地良く過ごせるように随所に創意工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と話し合い、家族の協力が得られた和室・洋室の居室は襖や内障子と洗面台が整い、各自の生活環境を損なう事無く自由な空間が作られている。炭や干したみかんの皮等で防臭効果を発揮させるなど環境にやさしい取り組みもされている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人成仁会 グループホームみどり
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県阿蘇郡西原村布田845
記入者名 (管理者)	片山 裕美
記入日	平成 20年 3月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人及び事業所の理念は開設当初より変わりなし。家庭的な雰囲気の中での個々に応じた生活を支援している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的なカンファレンス、職員勉強会の際に理念に基づいた意見交換ができています。又、日々のケアにおいても理念につながるケアが提供できています	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念はホーム内に掲示している。又、入居される際にも家族と本人に必ず説明を行っている	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関先や建物の周りに季節の花を植え、桜やコスモスの季節等隣接している施設の利用者も訪問しやすい様になっている。又、訪問者と談話できるようにベンチやテーブルも置いている	○ 地域とのコミュニケーションの為に広報誌を地域で回覧し、よりホームのことを知ってもらえる様にしている。又、できるだけ地域のお店を活用(買い物・散髪)した生活を送って生きたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学校や地域の行事にも積極的に参加し地域交流に努めている。又、夏休み期間中はホームの庭をラジオ体操の場所として提供することで毎朝の交流の場となっている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域との話し合いの場には運営推進会議を活用している。又、毎月の「しあわせがいっぱい」を地域に回覧することでホームからの情報発信にも取り組んでいる	○	グループホームの機能(環境、有資格者)の活用について運営推進会議の際に役場職員に伝えているが今のところ要請はない
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	勉強会やミーティングの際に取り上げ、全員の理解を図っている	○	評価終了後も具体的な改善に取組めるよう勉強会を継続していきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容は議事録に記載しホーム内に掲示することで職員間に伝達している		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新や入退居・入院の状況等、電話が主であるが情報交換や提供をする機会が多い		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用して入居された方がいるため職員間でも勉強する良い機会となった。新規で利用される方は今のところいない	○	制度の理解は重要である為今後も年間を通して勉強会を計画していく必要がある
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会において虐待や職員のストレスの面からも学習の機会を設けている。又、家族とのコミュニケーションに力を入れ外泊時等の本人の様子や対応も聞きやすい雰囲気作りを心掛けている	○	制度の理解は重要である為今後も年間を通して勉強会を計画していく必要がある

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と計画作成担当者が一緒に契約を行うように十分な説明を心掛けている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に関しては利用者からの意見や不満を聞き出すことが出来るような関係作り、雰囲気作りを心掛けている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の広報誌「しあわせがいっぱい」の発送や、半年に1度のケアカンファレンスにて生活の様子を報告している。又、金銭面に関しても報告しこずかい台帳へサインをいただいている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当窓口を設けている。苦情があった場合は職員間で周知徹底を図るようにしている。又、家族会の際に家族と管理者だけの時間をとって意見を聞き、職員へ内容をバックするようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談があり職員の意見を取り上げている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常に入居者を中心に考え様々な状況変化にも対応できるよう、ミーティングの時間を活用し随時意見交換を行っている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない退職にかかる職員の異動については経験や有資格、本人の希望を考慮し対応している。極力人的環境を変えないように努めている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	雇用形態が非正規の職員も正規登用の試験を年に2回実施し、離職防止、モチベーションの向上に努めている。経験年数等に応じ公平に外部研修に参加できるように配慮している	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他グループホーム施設との交換実習や、阿蘇地区グループホーム連絡会での情報交換の機会が定期的であり、その内容や参考資料を職員へ提示している。職員間での合同学習会は実施ができていない	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	歓送迎会や忘年会を実施し、福利厚生として温泉施設の入湯券を配布している。 毎月の有給休暇を利用しストレス発散に努めている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護福祉士は資格取得後給与形態が変わるシステムがあるが、その他の資格取得については金銭的なサポート、及び補助の仕組みができた	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居までには必ず数回の面談を行い、本人の意見や思いを聞き出せるよう努めている。又、暫定ケアプランにも反映できる様にしている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居にいたるまでに行う面談の中で家族の意見も十分参考にしている。センター方式アセスメント作成には家族にも手伝っていただき必要なものは暫定ケアプランにも反映するようになっている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と計画作成担当者が一緒面談を行い、現状の確認とその時一番必要な支援を提案できるようにしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	個人の情報を収集し家族とも連携を取りながら、必要であれば事前に訪問して頂く等の工夫もするようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、ともに暮らし支えあう関係を心がけている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年3回の家族会の開催と年2回のケアカンファレンスに参加していただくことでコミュニケーションを密にし家族からの信頼をもとに支援していくようにしている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員と家族の懇親会を年1回実施しておりその際にこれまでの経緯や話を聞ける時間がある。これを基に面会時の環境の設定など工夫している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式アセスメントや日頃の会話を基に個々に応じた故郷訪問の実施や年賀状・暑中見舞いのやり取りを支援している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の場の雰囲気作りには努めているが、何でも職員が介入するのではなく入居者にできる力があれば利用者同士の支えあいを見守ることもある		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	以前利用されていた入居者・家族の訪問がある。又、併設の特養に異動された場合の情報提供・交流は大切に継続していきたい	○	情報提供の書面が現在フェースシート、サマリーを使用しているがアセスメントツール、ケアプランも使用し生活の場が変わっても生活背景が分かるようにしたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の言動や暮らしぶりから本人の意向や希望を把握し、必要であればケアカンファレンス・ケアプランを活用し支援するようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は本人や家族、施設担当者から情報を得るようにし、センター方式のアセスメント用紙を活用することでより深い情報を把握することができる様努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の有する能力等の現状はセンター方式アセスメントを使って把握するようにし、ケアカンファレンスや申し送りノートを活用し職員間の相互理解に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のモニタリングの他、3ヶ月に1回のケアカンファレンスで職員間の意見を集約。半年に1度は家族・本人も交えカンファレンスチームとしての意見がケアプランに反映できるようにしている	○	家族の都合や計画の不備から半年に1度のカンファレンスが確実に実施できないこともある。カンファレンスの必要性を家族にも理解していただけるような説明・コミュニケーションをとっていく必要がある
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	生活の中で身体的・精神的に著しい変化があった場合は都度計画を作成し直し、必要であればアセスメントも取り直すようにしている	○	再アセスメントには23項目アセスメントツールを使用している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノート、ケアカンファレンスの活用により情報の共有に努めている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常生活の支援については柔軟な発想を心がけており、外泊や外出時等家族の要望についても臨機応変に対応できるようにしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	校区の小学校との交流が一番多く、お互いに年間行事として定着している。(花植え、お互いの運動会、総合学習など)	○	地域資源の中での交流を深め、お互いに協力し合える関係を今後も構築していく必要がある
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	隣接のデイサービスに遊びに行く程度はあるが実際に他サービスの利用実績はない		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働の実績はない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望等必要性があれば以前からのかかりつけ医の受診を支援している。又、協力医療機関との連携を密にし適時適切な医療を受けられるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族や主治医と相談し必要性があれば専門医の受診も受けられるように支援しているが、今のところ実績はない		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤職員に看護職員がおり医療面については気軽に相談でき、医療、福祉の両面から日常生活を支援している		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	日頃から協力医療機関、主治医との連携や情報交換を密にとるようにしている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今のところ対象の方はいないが終末期の対応については職員間で勉強会を開き、家族への説明も行っている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在対象者はいないが入居者に状態変化がある度に職員間で今後の対応について検討し、少しずつではあるが準備に取りかかっている	○	事業所全体としての機能を見極め、今後も定期的に検討を重ね必要な準備をしていく
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化が及ぼす影響を家族・職員間でしっかりと理解し、フェイスシートや介護サマリーを十分に活用しながら情報の共有を図るようにしている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間の会話や申し送りの際も個人名のでないよう工夫し、記録等個人情報の取扱いについてもできる範囲でプライバシーの確保を心掛けている	○	プライバシーや個人の羞恥心に対する配慮は足りない部分も多く、今後も勉強会や職員間のコミュニケーションを通して徹底していく
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中では出来る限り本人のペースや希望を重視し、本人が思いを表出できるような馴染みの関係づくりにも努めている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの中での基本的な日課は決まっているが常に本人の意思を尊重しており、自己決定のもと本人らしい生活を送ることを支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日頃の洋服選びや外出の際のおしゃれもできるだけ本人の希望や個性を大切にしている。美容室は個人の希望がないため地域内のものを利用している	○	以前実施していた朝の元気メイクの時間がなくなっている。機会をみて希望があれば再度時間を作っていきたい
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭きや茶わん拭き等できることは一緒に行っている。又、週2回の自主メニューの際には食べたい献立を皆で決めるようにしている	○	入居者の身体機能、認知力の低下により徐々にできない家事も増えてきているが、出来る作業はいつまでも続けていくことができるよう支援していきたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎週土曜日はお酒の日とし、希望によりビールやジュースを楽しめるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員と入居者が生活空間の中で共に生活することで排泄パターンを職員が把握し、適切な場所と時間に誘導を行いできるだけ尿とりパットやリハビリパンツを使用しないようにしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、いつでも入れる環境を提供しておりほとんどの方が毎日入浴されている。又、季節に合わせてゆず風呂やしょうぶ湯等楽しんでもらっている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠の際は清潔な寝具を使っただけのよう定期的に洗濯・交換したものを使用し、又、日中も気持ち良い休息のため膝かけ毛布や音楽等リラックスできる環境づくりを心掛けている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケアプランと連動し個人の能力や趣味を活かした役割分担や余暇時間の支援を行っている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭管理は行っていないが、本人の能力や希望に応じて買い物等の際に支払いまでお願いしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節感を味わえる行事、ドライブ等への外出は実施できているが、入居者の身体的な能力の低下により全体的に外出の機会は減少している	○	気候や個人の希望に応じて、より多くの外出の機会を増やしていきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に1度は「ふるさと訪問」としての帰郷やお墓参り、外食等本人が喜ばれる外出の機会を設けている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をかけることはないが家族からの電話はよくあっている。又、年賀状・暑中見舞いは毎年本人に書いていただき、仲の良い友人に定期的に手紙を書かれる方もおられる		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	遠方からの来客にも宿泊できるよう準備しており、又、連絡頂ければ食事もご一緒できる事を機関紙等で伝えている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的な拘束及び言葉による拘束についても定期的に勉強会を実施しており、職員間の理解を深めている	○	身体拘束については今後も定期的に勉強会や検討する機会を設け、職員間及び家族についても理解を深めていく必要がある
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会の中で鍵をかけることの弊害や安全面についても検討し理解を深め鍵をかけないケアに取り組んでいる	○	鍵の必要性については今後も定期的に勉強会や検討する機会を設け、職員間及び家族についても理解を深めていく必要がある
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	鍵をかけないケアを実践していることもあり所在の確認には特に注意している。プライバシーに配慮しながら入居者の言動や物音等の情報交換を職員間で徹底している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の管理についてはできるだけ安全面に注意しながらも生活感をなくさないように配慮している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハット報告書や事故報告書を活用し事故防止について定期的に検討している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当については年間計画をたて訓練に取り組んでいる。又、緊急時対応マニュアル作成し定期的にシミュレーションを実施することで落ち着いて行動できるよう急変時に備えている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を地域内の消防署、併設施設と合同で実施し協力・連携をとれるよう訓練している		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族を含めてのケアカンファレンスの際に考えられるリスクについては都度説明し、暮らしを大切にされた対応策を家族と一緒に考えている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックは毎日実施し体調不良等あれば申し送り時に必ず伝達するようにしている。又、緊急時はすぐに併設施設看護師と連携を取るようにしている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに個々の薬の情報が記載してありいつでも確認できるようにしている。又、軟膏類は一覧にして保管場所に掲示している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し個人の排泄パターンを把握すると共に、ヨーグルトや牛乳等飲食物を工夫しできるだけ薬に頼らない自然排便を心がけている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは毎食後に実施し週に一度は義歯の消毒も行っている。又、協力歯科医と連携し異常があればすぐに相談・対応できるようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量はチェック表を使用し把握。水分摂取量も少なくならないよう注意しており、食欲や水分量が少ない場合は好みの食事やジュースを使って確保できるようにしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルがありマニュアルに添って衛生管理・予防に努めている	○	徹底した予防や対応ができる様又、職員間で知識も深めていく為に来年度から勉強会を計画していく
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・布巾は毎日消毒し、台所・調理機具についても管理チェック表に添って衛生管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ベランダには季節の花を植え、訪問者と気軽に談話できるようにベンチとテーブルを設置している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や装飾を工夫し季節感のある家庭的な雰囲気をはかっている	○	職員も環境の一つと考え、声のトーンや作業が入居者にとって不快とならないよう注意していきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には間隔をあけてソファを設置し、気の合う仲間と思いきい場所できつろがれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との相談の上で本人の使い慣れたものを活かし、馴染みのある居心地良い環境を心がけている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	体調管理のため温度調節や換気には特に配慮しており、各居室でも必要に応じて芳香剤を使用している	○	寒い時期も時間を決めて換気を十分に実施していく必要がある
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間の中で転倒や事故のない様、設備チェックや工夫を行い入居者の動線の環境を整備している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の分かりやすい位置に居室名札やトイレの場所を表示し又、見やすいカレンダーや時計を使ってできるだけ自立した生活を送れるよう支援している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候の良い時期は季節の花や畑、広い敷地を利用して散歩や運動等に活用している		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・クラブ活動やサークル活動において沢山の種類の活動を提供できている
- ・恵まれた自然環境を活かし季節を感じるレクリエーションや畑作業ができる
- ・毎日お風呂に入ることができる
- ・外部からも出入りしやすく、いつでも外出できるような環境を作っている
- ・広報誌である「しあわせがいっぱい」は手書きで温かみがある
- ・職員がいつも笑顔で入居者だけでなく家族とも良好なコミュニケーションがとれている
- ・小学校との定期的な交流が定着している
- ・対面式キッチンに入居者と会話しながら調理できる
- ・危険防止について気付いてからの対応